

## くすのき2022 第1号

親和女子高等学校 進路指導部通信 高校版

## 親和生 みんなで「学び続ける力」を！

文化祭や春の大会が近づくとつれ、それぞれのクラブ活動がより活発になり、校舎やグラウンドをいっぱいに広がる皆さんの声に、親和生の持つ熱いエネルギーを感じています。

4月の最終週を迎え、それぞれの授業も助走期間を過ぎ、内容も日々深くなっていると思います。予習や復習、課題の提出など、着実にできているでしょうか。5月の連休を利用し、一度、これまでの取り組みを振り返って、積み残したものを仕上げるようにしてください。

進路指導部では、今年度の目標として、皆さんに「学び続ける力」を高めることを目指して学習に向かってほしいと思っています。どんな小さなことでも続けていくことで大きな力になっていきます。今年度は、普段の学習のなかで何か1つ継続していくことを決め、それを毎日続けていってください。1日に3つの単語を覚えるだけでも1年続けると1000語以上の単語覚えることができます。さて、みなさんの普段の学習に向かう姿勢を大きく分けると、3タイプに分かれます。自分はどのタイプに当てはまりますか。

**Aタイプ**：日々の課題や宿題に加えて、自ら課題を見つけ、その課題に取り組むことができる人

**Bタイプ**：日々の課題や宿題はするが、自主的な学習はあまり取り組まない人

**Cタイプ**：日々の課題や宿題があまりできていない人

この3つのタイプと、模試のGTZ(学習到達ゾーン)のA、B、Cは、ほぼ一致しています。今年1年、自分のすべき学習を決め、それを継続することを通して、今までCタイプだった人はBタイプに、Bタイプだった人はAタイプに、Aタイプだった人はさらに高みを目指し、それぞれがGTZを上げることを目指してください。「学び続ける力」を高め、親和生全体で受験に向かう力が強くなることを期待しています。

<GTZの目安> **S2：偏差値70以上、A2：偏差値60以上、B2：偏差値50以上**

GTZ	国公立大学	私立大学
S1	東大・医学部医学科合格 東京, 京都, 一橋	
S2	大阪, 東京工業	早稲田, 慶應, 国際基督教
S3	名古屋, 神戸, 東北, 東京外国語, お茶の水	同志社, 上智, 立教
A1	北海道, 横浜国立, 大阪公立, 東京農工	明治, 青山学院, 中央, 東京理科
A2	金沢, 東京都立, 広島, 東京学芸, 横浜市立	立命館, 関西, 関西学院, 法政
A3	富山, 信州, 静岡, 茨城, 福井県立	近畿, 龍谷, 同志社女子, 京都女子
B1	山梨, 福井, 富山県立, 琉球	京都産業, 甲南, 日本, 関西外, 東洋
B2	地方国公立, 名桜, 室蘭工	中堅私立挑戦
B3	国公立大学挑戦レベル	金沢工, 金城, 玉川, 神奈川
C1	4年制大学挑戦	桜美林, 帝京, 東海
C2	4年制大学挑戦	金沢学院, 目白, 大東文化
C3	実力養成	日本経済, 東京国際, 城西国際
D1・2・3	基礎力養成	基礎力養成



## 進路閲覧室の利用

利用時間は以下のようになっています。進路や学習の方法など、遠慮せず、相談に来てください。

### ◆利用時間◆

朝 8時00分～ 8時25分

昼休み 12時45分～13時20分

放課後 15時45分～17時50分（7限のとき16時40分～17時50分）

### ①赤本の貸し出し

進路閲覧室には、赤本（過去の入試問題集）や問題集があり、1週間を目途に借りることができます。

### ◆貸出・返却手順◆

① 進路指導部の教員に声をかけて貸出カードに必要事項を記入して提出してください。

② 返却の際には進路指導部の教員に声をかけてください。

③ 借りた本をできるだけ元の位置に戻してください。

### ②パソコンの利用

進路閲覧室には、ネット講義用のパソコンが2台あります。大学情報などを検索することができます。

## 高校3年へ 受験まで6週間単位のサイクルで学習計画を立てよう！

先日の進路説明会で伝えたことですが、受験までの期間を、6週間という中期的な区間で分けて目標を設定して取り組み、それを積み重ねていくことを薦めます。

4月の授業開始日から国公立大学の個別試験までの期間を6週間という区間で分けると、全部で7回あります。この6週間毎に自分の取り組むべき課題や学習目標を設定して取り組みれば、学力の伸びを確認しながらモチベーションを維持し続けることができます。1サイクルの中で一通りの内容を完結し、そのときにできなかったことを次のサイクルで補うようにする。その取り組みの確認の場として模試や定期考査をあてるとよいでしょう。科目数の少ない私立大学を目指す場合はその半分の3週間で1サイクルとして考えてください。

もちろん、学習の中心となるのは学校の授業です。どの教科に授業においても、一通りの基本事項を網羅して学ぶことができるように組み立てられています。しかし授業の内容だけではやはり受験には対応できません。一つは教科全体を見渡して、自分自身の足りないところを補ったり、忘れかけていることを復習したりすること。もう一つは個々が目標とする大学に特化した学習をすることです。入試科目の配点で全体の得点に占める配点の高い教科や頻出傾向、内容などの学習に力点を置く必要があります。そのためには第1志望群の大学の配点や問題傾向は赤本などでみて把握しておく必要があります。



	期間	学習の方針（個々によって異なる）
第1回	4月中旬～6月マーク模試	基本事項の定着の確認・目標との距離感を知る期間
第2回	6月マーク模試～7月期末考査	第1回での不備を補う。
第3回夏休み	7月期末考査～8月下旬	前半は共通テスト完成、後半は2次対策
第4回	9月上旬～10月記述模試	2次対策を中心にじっくりと学習を進める。
第5回	10月記述模試～11月下旬	2次対策から共通テスト対策へと切り替える。
第6回	12月上旬～共通テスト	共通テスト対策を中心とした学習を進める。
第7回	共通テスト～国公立個別試験	2次対策と同時に私大の一般入試を受験する。